

# まちで見られる虫たち

市街地の生きもの 広瀬重夫

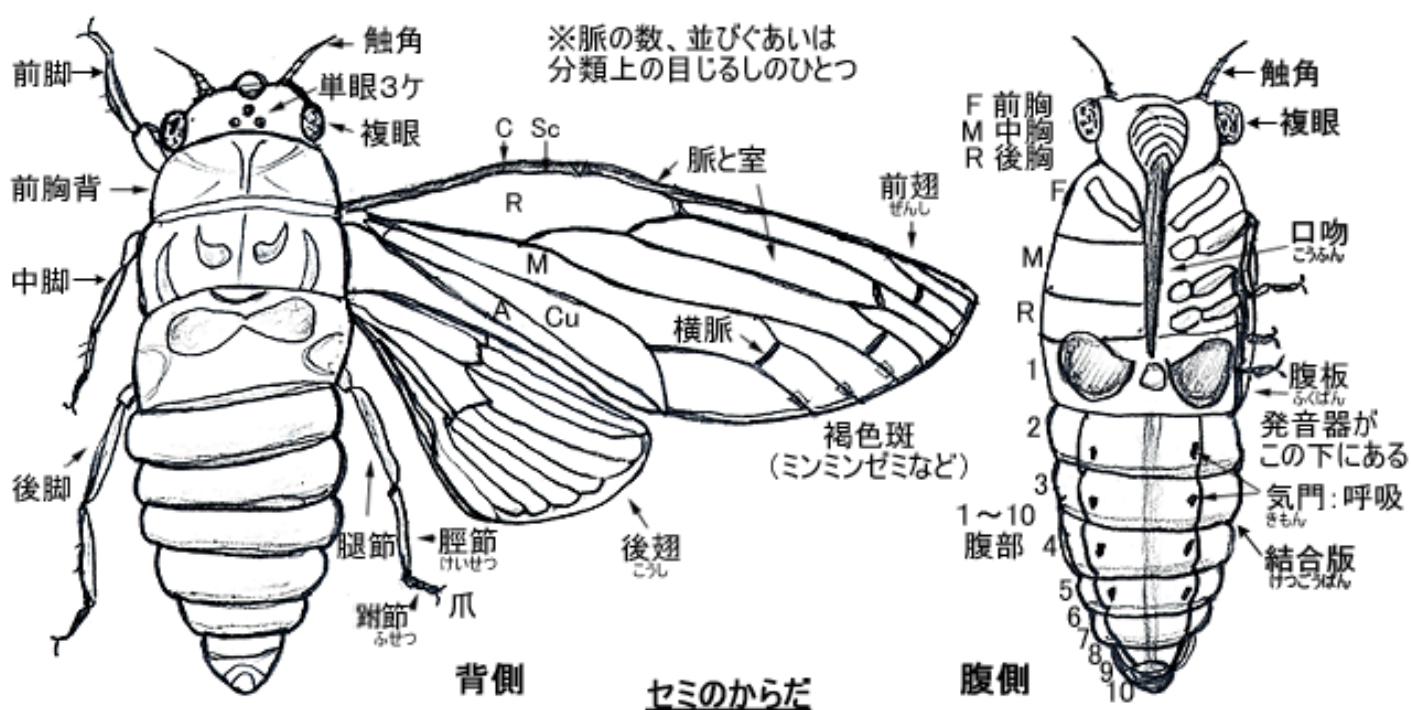
## 半翅目-セミのなかま



口はカメムシのなかまと同じく、パイプ型の吸収口ですが、幼虫も成虫も植物質を吸汁します。また、前後のはねは膜質で、前ばねの先の方半分だけが膜質のカメムシ類と大きく異なります。また、雄は発音筋、発振膜、そしてバイオリンの胴の役目をする大きな共鳴室など複雑なしくみで、昆虫界きつての大音響で鳴き、鳥も顔負けです。

不完全変態とはいって、幼虫が7年あまりの長い地中の暮らしから地上に出て羽化（うか）するときは、劇的な変化を遂げて成虫になります。それと、触角がとても短いです。

ハルゼミ、エゾゼミ、ヒグラシなどは山中のゼミです。



## クマゼミの産卵

真夏の街中で「シャン、シャン、シャン」とにぎやかな鳴き声を響かせているところは、皆さんもよく見ていることでしょう。

これは、公園のオトメツバキの枝に卵を産み付けているところです。長さ1cmもありそうな産卵管は刃物のように鋭いのでしょうか、堅そうな樹皮をはいで卵を埋め込みます。3時間あと、再び現場を見に行って驚きました。まだ、産卵行動を続けていたのです。



写真58 クマゼミの産卵  
8月、青谷川公園

## クマゼミの産卵あと

産卵現場を見てから、3日あとに調べに行きますと、ごらんのようになるでノコギリ歯のように樹皮がささくれだっていました。

産み付ける方向は下から上に向いています。めくりあがった傷跡をルーペで見ましたが、よほど奥の方に卵が差し込まれているのでいるのでしょうか、確かめることはできませんでした。卵は冬を越し、梅雨どきにふ化して地中に入っていくそうです。



写真59 クマゼミの産卵あと  
8月、青谷川公園

## クマゼミの羽化

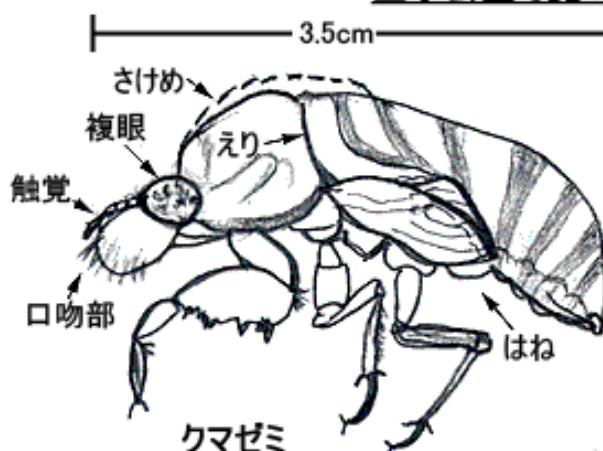
7月も半ば正午過ぎ、小1の孫が「セミが生まれている」と大声を出して呼びにきました。

近くを探すと、他にも殻が5個見つかります。庭木は10年ほど前に植えたものですから、セミの発生はごく自然なことだったのかもしれません。それにしても、ごく身近なところでこうした光景が見られるというのはやはり感動を憶えます。



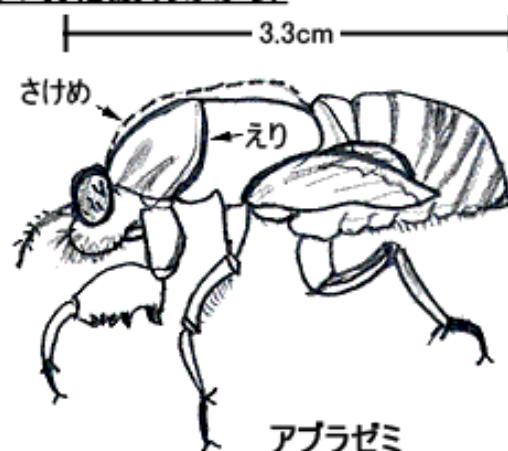
写真60、クマゼミの羽化  
7月、自宅

### 王子公園で見つけたセミの羽化殻(うかがら)



**クマゼミ**

触角8節、毛まばら  
えりは黒くならない  
腹側に少し泥がつく  
体は親指のように太い  
体幅1.8cm  
中脚と後脚の間へそ状突起



**アブラゼミ**

触角7節、毛が多い  
えりが黒い  
腹側に泥はつかない  
体は中指型でクマゼミに比べほっそり  
体幅1.4cm  
クマゼミのようにへそ状突起は無い

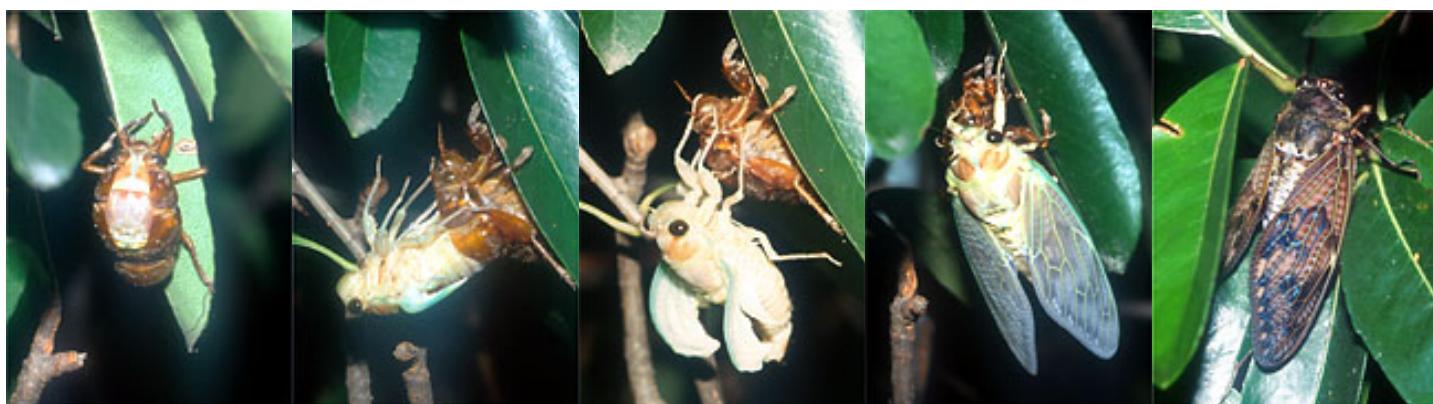


写真 6 1

写真 6 2

写真 6 3

写真 6 4

写真 6 5

## アブラゼミの羽化、8月、青谷川公園

## アブラゼミの羽化

公園をふちどるシャリンバイの植木にはたくさんの羽化殻が引っ掛けっていました。また、その付近の地面には、いくつもの幼虫が這い上がってきた脱出孔があいています。

そして、一匹の羽化しきかけのを見つけ、時間を追って記録しました。

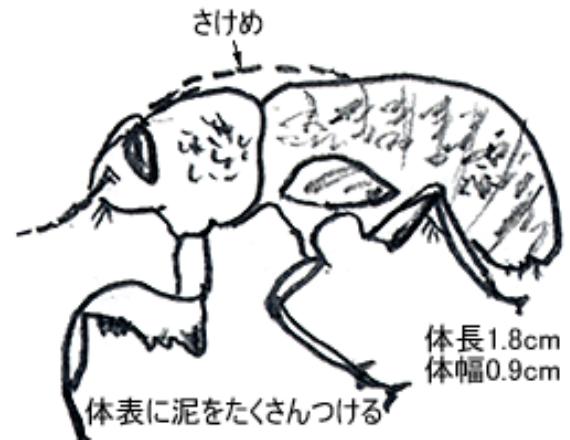
8月4日	20時 0分	背中に長さ1cmぐらいの裂け目が入る（写真61）。
	20時 6分	裂け目は大きくなり背中がのぞく。
	20時 11分	小さく縮められた羽が見えだす。
	20時 17分	真横から見ると、体の上半分が殻の外に出る。
	20時 23分	前あしをもぞもぞと動かし、体は45度ぐらい斜め下にのぞけっている（写真62）。
	20時 25分	あし全部が殻の外に出る。羽はちょっと伸びるだけ。
	20時 30分	体の80%ほどが殻から脱け出す。あしはやはり、もぞもぞさせている。
	20時 35分	上体を上に持ち上げる姿勢をとったかと思うと、また元の位置に戻したりして垂直近くに垂れ下がる。その後しばらく頭を真下にしたまま脚も動かさずに、最後の殻の脱出に備えて休んでいる。
	20時 50分	上体を反転させ、残っている力を振りしぼって頭をぐいっと上に持ち上げながら殻からの脱出に成功。おめでとうと言ってやりたい。残念なことにその瞬間はカメラのフラッシュの不調で撮影は失敗。
	21時 0分	電池を取り替え、無事羽化したあとを写す。羽はまだ曲がったままで、体も白っぽい（写真63）。
	21時 25分	体を殻の上で少し移動させる。
	21時 45分	羽がほんのリアブラゼミの茶色に染まってくる（写真64）。
8月5日	6時 30分	体を休めていた殻から15cmほど移動して離れていた。羽はもうすっかり親ゼミの色になっていた。あとはもう飛び立って1ヶ月ほど夏を謳歌（おうか）するのみ（写真65）。

尚、セミの羽化に限りませんが、いつも成功するとは決まっていません。街中で羽化直前に死んでいるのを何回も見たことがあります。また、羽化の途中はもっとも無防備なので、野鳥の餌じきになるものもいます。

生まれるということや、生きることの厳しさはすべての生き物に共通です。



写真 6 6、ミニミニゼミ  
8月、王子公園



ニイニイゼミ

### ミニミニゼミ

神戸の市街には、樹木の多い公園など「緑の島」が点々と散らばっていて、クマゼミをはじめアブラゼミやニイニイゼミが発生します。

また、六甲山のふもとですので、山中のミニミニゼミやツクツクボウシなども移動ってきて「緑の島」に姿を見せます。

このミニミニゼミは好物の桜の樹液があ目当てのようです。



写真 6 7、ツクツクボウシ  
8月、落合中央公園

写真 6 8、ツクツクボウシ  
9月、中島通公園

### ツクツクボウシ

暑い盛りの8月もお盆のころになりますと、秋の訪れを予告するかのように鳴き始めるツクツクボウシ。

ヤマモモ、メタセコイアなど20本ほどの木を見ていくうちに、3匹ほどが地上2mあたりでそれぞれの木に止まっていました。

### ツクツクボウシ

9月に入ってからも、残暑の厳しい日が続いていましたが、前日の夕方、にわか雨があつて少し涼しくなりました。この公園の近くは並木の多い学校がいくつもあって、セミで賑わうところです。タイサンボクの皮をめくって、どうやら産卵しているようです（写真68）。

[このページのPDFファイル](#)



[トップページへもどる](#)